

# 培ってきた女子教育の成果を生かし 女性のみらい作りを応援します。

金城学院大学「女性みらい研究センター」は、2018年4月に開設されました。金城学院大学には、学院として130年以上、女子大学として70年以上にわたる女子教育の実績があり、多くの研究が行われています。「女性みらい研究センター」は、金城学院大学がもつ知を結集し、自立した女性の「みらい創造」に貢献するためのセンターです。

「女性みらい研究センター」が現在行っている具体的な活動には、女子大学ならではの学びである必修科目「女性みらい科目」で使用される映像教材や教材ノートの監修および作成があります。「女性みらい科目」は、女性の生き方や働き方などの多くの選択肢を知り、自分のみらいをデザインするための礎となる共通教育科目です。学問分野にとらわれることなく、女性の健康、こころを知り、適正な情報を収集・分析し、自らをみつめ、論理的な思考を伸ばすことで、課題に直面したときに、問題を発見し、自らを律し協働し、課題解決や目標実現ができる力を涵養します。

## 金城学院大学の教育・研究活動を 動画で公開しています

学外に向けての活動には、「教育・研究オープンリソース～女性に関する教育・研究紹介～」があり、大学ホームページを通じて、文学部、生活環境学部、薬学部、国際情報学部、人間科学部、看護学部の教員が作成した10分以内の動画を公開しています。女性に関する教育や研究だけでなく、地域での教育活動や生活に直結する課題を取り上げた研究活動など広範囲に紹介しています。動画を視聴することで、卒業生、在学生、高校生、中学生やそのご家族、ご友人が金城学院大学の教育や研究を知り、社会全体で女性の「みらい創造」について考えるきっかけになることを期待しています。COVID-19感染蔓延前の2018年度には、対面方式で女性



生活環境学部 食環境栄養学科 教授  
女性みらい研究センター長 丸山 智美

自分らしく輝くみらいをつくりたい女性たちへ

Institute for Women and their Future EST 2018

FOR A BRIGHTER FUTURE

RESEARCHING 研究しています	LEARNING 学べます	COUNSELING 相談できます
女性に囲わりの深いテーマについて研究を行い、女性のみらいに役立つ成果を生み出します。	女性が社会、地域、家庭でいざなぎ力を発揮できるような多様なプログラムを開発します。	一人ひとりのみらいのために、専門のカウンセラーが女性のキャリアまたは子育てに関する相談に応じます。

教育・研究オープンリソース  
今、その場で学ぶ方法で、女性のみらいにつながる教育・研究を動画公開しています。教育・研究紹介の動画が、あなたの気づきと学びのきっかけになりますように。

女性みらい研究センターホームページ内の「学べます」はこちら  
<https://mirai.kinjo-u.ac.jp/college/index.html>

QRコード

悩みは成長するチャンス  
わたしたちがこれまで培ってきた伝統ある女子教育の実績に基づき、次の時代を生きる女性のために研究を続け、発展させます。

金城学院大学 女性みらい研究センター

リーダーシップ研究の動向と課題についての講演会「女性みらい活躍フォーラム」や、講座「人生100年時代のライフデザイン」を開催しました。現在は、感染症との共存による新しい生活様式が安定する時期に向けて、新しい方法での社会に向けた情報発信方法を検討しているところです。研究面では、女性に関する基礎研究を2021年度から始めました。現在、データを解析中です。解析が終了した際には、その結果を広く社会に発信する予定です。金城学院大学は、それぞれが自立した女性である卒業生を有しています。仕事、子育て、介護、地域活動、ボランティア、趣味、社会貢献などで、さまざまな役割を担い、自分ならではの人生を紡いでいる卒業生の生き方は、年代の異なる女性たちのロールモデルです。自立した女性のみらいを創造するには、さまざまな年代の女性一人ひとりが、悩みやその乗り越え方、できることやすべきことなどを、個々人で考え続け実行することが必要でしょう。「女性みらい研究センター」は、金城学院がこれまで培ってきた女子教育の実績に基づき、今の時代、そして次の時代を生きる女性のために研究を続け、発展させ、さまざまな年代の女性のみらい作りを応援してまいります。



▲ キリスト教神学「歴史神学」「宣教学」の公開動画

女性みらい研究センター  
ホームページ内  
「学べます」はこちら ▶

<https://mirai.kinjo-u.ac.jp/college/index.html>

QRコード





## 幼稚園50周年記念遊具が完成しました。

「わあ、素敵な園庭ですね。」

初めて来園された方から、こんなふうに使っていただくと嬉しくなります。子どもたちにとって遊びは、心や身体を大きく成長させます。豊かな自然を生かした環境は、豊かな遊びを保障してくれます。

園庭には、築山やトンネル、専門家の方々と保育者とお父さんたちがロープワークで作った遊具(太鼓橋・モンキーブリッジ・ブランコなど)があり、子どもたちは創造力と想像力を働かせながら、友だちと一緒に遊んでいます。例えば、太鼓橋は上って降りだけではなく、家に見立てて家族ごっこをしたり、時にはドロケイの基地になることもあり、遊びによってその姿を変化させます。

金城学院幼稚園の園庭の構想は、1986年に自主セミナーとして当時の保育者が行った様々な分野の方々と勉強会の中で、「子どもの遊びを豊かにする園庭とは？」を考えていた時期に芽生えました。1997年に正式に「園庭整備委員会」が発足し、既成の保育遊具を設置するのではなく、その時々の子どもの遊びを受け止め変化し続けるような、遊びがより豊かになる園庭として設計されました。

山やでこぼこのある園庭は整備も大変ですが、年4回園庭ワークという日を設けて、在園児の親子や卒園児、未就園児にも参加していただき、自分たちの手でメンテナンスを行っています。子どもたちが自ら主体的に遊ぶ要素がたくさん詰まった園庭は、多くの方々の手によって今も守られているのです。



10月28日に開かれた新遊具お披露目会。

### 幼稚園50周年おめでとう！

今年の夏、幼稚園設立50周年記念行事の一環として、園庭に新しい遊具が誕生しました。築山の高低差を生かした雲梯とターザンロープを使ったロープウェイです。子どもたちの姿を踏まえ、保育者がアイデアを出し合い立案した金城オリジナルの遊具なので、設計から完成までには多くの学院関係者の方々、業者の方々が携わっていただきました。

2学期の始業礼拝後には、待ちに待った「新遊具お披露目会」を開催。年長児が中心となってお祝いの歌をうたい、「おめでとうございます！」とメッセージを伝えました。新遊具の完成を皆で喜び合う姿、「早く遊びたい！」と目を輝かせる子どもたちの姿は、50年間大切にしてきた想いが今も受け継がれていると感じる瞬間でした。

新しい遊具には早速長い列ができ、子どもたちが喜んで遊んでいます。年長児を見て挑戦しようとする年下児の姿、年少児に遊び方を教える年上児の姿は微笑ましく、異年齢児が育ちあう環境もより豊かでありたいと思います。

これから新しい遊具を使って子どもたちがどのような遊びを創り出していくのか、進化していく園庭の未来が楽しみです。

うん てい  
雲梯



完成した雲梯は子どもたちに大人気。



ロープ  
ウェイ



ロープウェイでターザン気分を楽しむ子どもたち。

## 金城学院高等学校グリークラブが 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞受賞。

2022年10月29日、青森市のリンクステーションホール青森で第75回全日本合唱コンクール全国大会(全日本合唱連盟/朝日新聞社主催)が開かれ、高校部門Aグループ(6人以上32人以下)で出場した本校のグリークラブが銀賞を受賞しました。愛知県大会、中部支部大会を勝ち抜いて臨んだもので、本校の全国大会への出場は5年ぶりの快挙でした。そこで、グリークラブ顧問の宮木令子先生と、部長の横山盟さん、副部長の山田かりなさんに話を聞きました。



左から横山盟さん、宮木令子先生、山田かりなさん

### 大会最小人数でつかんだ銀賞

1年生から3年生まで、部員全員の16名で臨んだ全国大会。高校部門では最小人数の出場でしたが、見事銀賞をつかむことができた要因は、「人数が少ない分、一人ひとりが頑張ってしっかり声を出せていたこと。一つひとつの歌詞、言葉が聴いている人にきちんと届いたこと」と、宮木令子先生。横山さんは、「本番前に“みんなで楽しもう!”と声をかけあったことで、いつも通り、最後まで楽しく歌えました」。山田さんも、「こういう舞台は初めてだったので、最初はガチガチに緊張しましたが、それでリラックスでき、自信を持って歌うことができた。心強いメンバーたちにも感謝です」と振り返ります。コンクールの課題曲はラテン語の曲「Quam pulchra es」(John Dunstable作曲)。自由曲はぐっと雰囲気を変えて、歌人永井陽子さんの短歌がもとになっている「無伴奏女声合唱のための『フォルテは歩む』」(信長貴富作曲)から、『ガリレオの望遠鏡』『べくべから』など4曲を披露。歌詞と旋律から感じとった情景を、息のあったハーモニーで表現しました。

### グリーのメンバーがいるところには、 いつも歌がある

3年生の横山さんと山田さんにとって、今年はグリークラブでの活動は最後の年。思えば、2人が高校に上がった時は

すでにコロナ禍の渦中。愛知県に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されている期間は活動禁止。中学・高校の部員交流は禁止。合宿も中止。定期演奏会やメサイア演奏会も、開催中止(2020)や制限付き開催(2021~22)など、厳しい現実と直面しました。また、今年こそ考えていた海外演奏旅行も叶いませんでした。

現在はかなり緩和されたものの、練習時はマスク着用、メンバー同士向きあわない、左右1メートル、前後2メートルの間隔を取るなど、合唱部の活動としては厳しい状況が変わらず続いています。「それでもやってこれたのは、みんな歌うことが好きだから」と、山田さん。「自分が出した声全体にピタッとハマり、自分の声も綺麗に聴こえる時がある。そんな幸せを感じる瞬間があるから、6年間続けてこれました(横山さん)」。

今年の11月23日、愛知県芸術劇場コンサートホールで開かれる学院伝統のメサイア演奏会では、グリークラブの中学生メンバーや管弦楽部と共演。12月には各地で行うクリスマスコンサート、来年3月には愛知県芸術劇場コンサートホールでの定期演奏会など、大事なイベントがいくつも待ち受けています。銀賞受賞の余韻に浸るまもなく練習に励む毎日ですが、部員たちの表情には歌うことへの喜びがあふれています。



◀中部支部大会にて



## 笑顔の花を咲かせよう！をテーマに「思考力ワークショップ」を開催しました。

夏休み中の8月20日(土)、「レゴ®シリアスプレイ®」メソッドを活用した「思考力ワークショップ」を行いました。参加したのは1年生31名。この日のテーマは、「笑顔の花を咲かせよう!! ~この世界(社会)を笑顔でいっぱいにするために、私たちのできることを考えよう~」。参加生徒は正解のない問いに対して、自分たちなりの視点で粘り強く考えていくことにチャレンジしました。ワークショップをふり返って、企画・開催に携わった近藤浩子先生と福田順先生に話を聞きました。

### 遊び心いっぱいのレゴ®で 思いを見える化し、言語化する

「レゴ®シリアスプレイ®」は、レゴ®ブロックを学びの道具として使い、「作品を作る」→「作品を発表する」→「作品をもとにグループ内で対話する」といったプロセスを通して、思考力や課題解決力を鍛える手法です。本校では2020年度より導入し、「Dignity」の授業などで活用しています。

今回のワークショップでは、生徒たちは5~6人のグループに分かれてワークに取り組みました。まずは、与えられたテーマ「この世界を笑顔でいっぱいにするために私たちができること」について、一人ひとりが頭の中で思い描いたイメージをレゴ®で表現します。それぞれ作品ができ上がったら、グループ内で順番に自分の作品の意図を説明します。最後はお互いの作品を持ち寄り、組み合わせることでひとつの作品(共有モデル)をつくり上げ、さらにそのモデルに表れている問題に対しての要因と、自分にできる解決策を話し合いました。

### 作品の一例をご紹介します

#### 個人作品『私の考える笑顔があふれる世界。』



グループ全員のアイデア、こだわりを結集させた共有モデル。

### 内に秘めた思いに気づいたり 他者との違いを楽しんだり

レゴ®シリアスプレイ®のよいところは、正解も不正解もないこと。みな、平等に時間と機会が与えられ、誰一人として取り残さないこと。とにかく手を動かしてレゴ®を組み立て、発表し、対話を重ねるうちに、普段なかなか言語化しにくい、もやもやした思いや考えを自分の言葉で語れるようになります。話すことが苦手な生徒も、レゴ®を介することでハードルが下がり、話がしやすくなります。自分の考えを語り、相互理解を深めるなかで、「自分はこんなことを考えていたんだ」と自身が内面に秘めている思いに気づいたり、人の数だけ多様な考え方があることに気づいて、議論の幅が広がったり。時間を忘れ、夢中になって取り組む生徒たちの姿は、教員たちの想像を遥かに超えるものでした。

レゴ®などを活用した取り組みはこれで終わりではありません。今後も、自分たちの身の回りのちょっとしたテーマを取り上げ、自分ならではの視点で問題点を切り取り、その解決策を探っていくワークに継続的に取り組むこと。そうした小さな積み重ねが、やがてSDGsのような社会課題を自分ごととして捉え、行動する力につながっていくことを願っています。

